

# YMCA

K U M A M O T O

# NEWS



April 2010  
vol.455

# 4

基本聖句 喜ぶ人と共に喜び、  
泣く人と共に泣きなさい  
(ローマの信徒への手紙第12章15節)

### 熊本YMCAの使命

共に生きる社会 地球環境の保全 生涯学習の推進  
ウエルネス活動 ボランティア活動 平和な世界

■ホームページ [www.kumamoto-ymca.or.jp](http://www.kumamoto-ymca.or.jp)  
■ブログ [kumamoto-ymca.wablog.com](http://kumamoto-ymca.wablog.com)  
■メールマガジン登録  
[www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi](http://www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi)



●発行所／(財)熊本YMCA／〒860-8739 熊本市新町1-3-8 TEL096-353-6397代  
●編集人／堀 雄二 ●発行人／堀 弘雄 2010年4月1日発行(毎月1日発行)  
1984年8月15日第3種郵便物認可 定価60円(送料60円)

## CONTENTS

- 2 熊本ワイズメンズクラブ60周年  
チリ大地震緊急街頭募金
- 3 Message 体操教室OB 岡準平さん  
アガベNo.49「人生のプロセスを楽しむ」  
event report 新体操フェスティバル  
YMCA学院高等学校卒業式
- 4 Report 地球温暖化フォーラム参加報告  
YMCA NETWORK(地域YMCA情報)  
上通YMCA/水前寺幼稚園/YMCA学院高等学校

# 多文化共生社会を生きる 子どもたち

アジアでは人やモノ、情報の流れが加速し、国境の壁が低くなっています。そんな中、英語は国際共通語化し、シンガポールやマレーシアなどアジア各国においても共通の主要言語となりつつあります。日本では、2011年度からいよいよ小学校5、6年生で英語活動が必修化。日本のYMCAは、120年にわたり英語教育に取り組んできました。未来を生きる子どもたちが多様性を受け容れることができるようになること、また、国際社会で役立つコミュニケーション能力を身につけることがYMCAこともえいごスクールの願いです。国籍や民族の異なる人々が互いの文化や違いを認め合い、共に生きていく「多文化共生社会」実現のために必要な考え方について、英語教育の第一人者として知られる東後勝明さんにお話しいただきました。

### 変わりゆく英語

昔は英語も一外国語に過ぎませんでした。その後、英語は国際語としての地位を確立し、遂には世界の共通語の地位にまで上り詰めたのです。今や英語は一外国語や一国際語にとどまることなく、英語圏の人々の手さえ離れ、一人歩きを始めています。仮に世界の約15億人が英語を使っているとして、そのうち英語を母語として話す、ネイティブスピーカーと呼ばれる人々はアメリカ、イギリス、カナダなど3億数千万人。残りの12億、つまりその4倍近くの人が公用語、

第二言語または外国語として英語を使っていることになりまます。今では、英語がどの国の言葉なのかを特定するのは容易ではありません。

### 第二のバベル

このように世界中の人がお互いのコミュニケーションの道具として、あらゆる分野で英語を使い始めたからには、私たちも取り組む姿勢を大胆に変えていかなければなりません。これまでの、英語を外国語として「学習(learn)」する姿勢から、世界の共通語として「習得(acquire)」する姿勢への転換です。そのためには早くから英語に慣れ親しみ、異言語異



6カ国のリーダーが参加し、英語を用いて行われた子どもえいごキャンプ

## わたしと聖句



ヨハネによる福音書第5章38〜40節

父がお遣わしになった者を、あなたたちは信じないからである。あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ。それなのに、あなたたちは、命を得るためにわたしのところへ来ようと思わない。

### 二つのプレゼント

今から二千年前、ユダヤ聖書学者は、聖書の中に永遠の命があると考えて聖書を研究していました。昔からキリストが来ると預言されていたので、ユダヤ人はその方を待っていたのです。ただそれが誰を指すのか、いつの時なのか謎でした。

この時、命を得るために私のところに来ればいいのに、という人物が現れました。だが賢者たちの多くは信じないで、イエスのところに行きません。かえってイエスの人気をねたみ、裁判にかけて十字架で殺しました。ところ

が三日目、失望していた弟子たちの前に復活したイエスさまが現れました。やっぱり本物だ！ 天から遣わされた約束の方だった！

…結局何がいたいのでしょうか。神の愛です。まず、先に創造主のほうから人類に二つのプレゼントをくださったということ。それは、聖書とキリストです。そして永遠の命はキリストのうちにあります。今では世界の歴史はこのプレゼントを頂いた年を中心としてカウントしています。

日本バイブルプロテスタント人吉聖書教会  
森下 薫

文化への目覚めを図り、世界の潮流に取り残されないようにすることではないでしょうか。

今後、英語が共通語として存続していくのかどうか。私は自浄作用が働いて、第二のバベルの塔は避けられるのではないかと思っています。しかし、どの言語にも背後には固有の文化があり、さらに個人には独自のアイデンティティーがあり、こうしたものが共通語としての英語で束ねられていくとは考えられません。どうしても多言語/多文化の視点が必要とされるようになりまました。

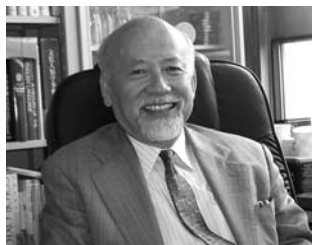
### 留学の思い出

私が初めてロンドン大学に留学した1969年頃は、単一言語/文化で育つ子どもが社会的に普通とされ、多言語/文化で育つ子どもはむしろ問題視されていたのです。ところが80年代に再び留学をした時にはその見解は逆転。そして、具体例としてアイスランド、韓国、そして日本の国名が挙げられました。これにはいささかショックを受けました。様々な言語、様々な文化、様々な独自性を持つ世界の人々と共にこの地球上で暮らしていくためには、やはり複数の言語、複数の文化に触れながら異文化理解を促進することが求められています。そして多文化共生社会を真に生き抜くためには、言語習得、文化理解に加えてもう一つの側面、言葉の奥に潜む心の問題が問い続けられています。

### 難民キャンプの話

ある時こんな話を聞いたことがあります。内戦で家族を失った少年が、難民キャンプに引き取られ保護されました。絶望のあまり何も口にせず、日増しに衰弱していきました。みんなが途方に暮れる中、一人の青年がその子を抱きかかえ、自分の車の中に連れて行き、来る日も来る日も寝食を忘れ、声をかけ続けました。やがて、少年はうつすらと目を開き、わずかながら口を開け、スープをすすりました。ついに、自分を必要としている誰かがいることに気づき、生きる意欲が蘇ったのです。

どんな言葉かけたのかは定かではありません。大切なのは言葉を心に注ぎ込むことです。言葉を超えたところで心が通い合い、さらに深いところで命が響き合うのです。言葉は違っても、異なるアイデンティティーを持つていたとしても、この響きこそが、真の共生社会を生きる子どもを育むのではないのでしょうか。



### 東後勝明さん

1938年兵庫県生まれ。早稲田大学教育学部英語英文学科卒業、同専攻科修了。ロンドン大学大学院修士、博士課程修了。専門は英語学、英語教育。1972年から13年間にわたり、NHKラジオ「英語会話」の講師を務める。早稲田大学名誉教授。現在は東京YMCAインターナショナルスクール校長。